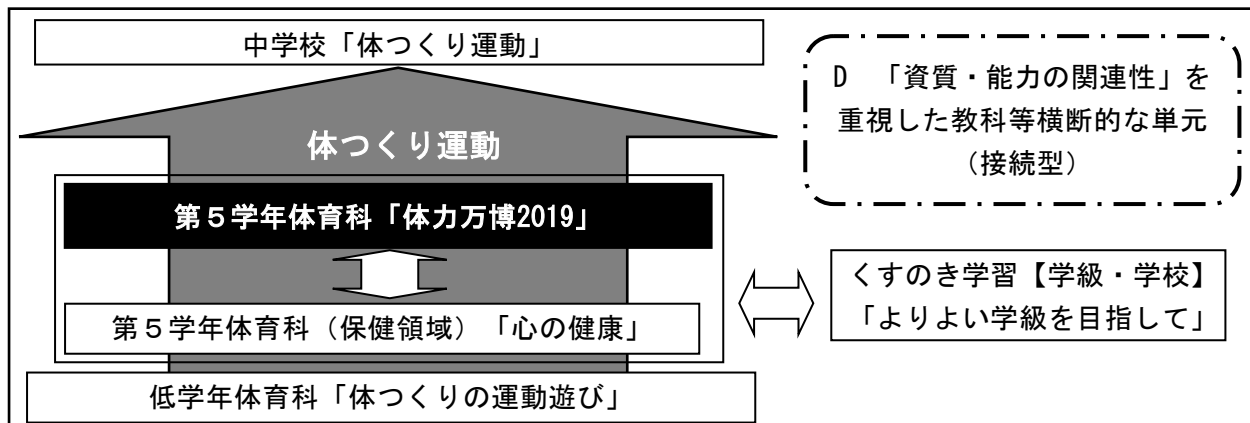


## 1 単元全体構想図



## 2 単元構想について

本校体育部では、健康で豊かなスポーツライフの実現を視野に入れ、運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を図ることを目標にし、子どもの健全な心身の発達に寄与してきた。こうした中で、子どもはいろいろな運動と出会い、「これならできそうだ!」「やってみよう!」と好奇心旺盛にチャレンジしてきた。こうした経験を積み重ねた結果、体を動かすことを好み、体育の授業を心待ちにしている子どもも増えている。さらには、体育の授業だけでなく、休み時間にも運動に親しんできている。このように、子どもは豊かなスポーツライフの実現に向け、一歩ずつ歩みを進めている。

10月上旬に行った集団宿泊学習「自然の学校」では、自然豊かな場所、ゆっくりした時間の中で、多くの仲間と一緒に体を動かす経験ができた。ここでの登山やウォークラリーでは、互いに声を掛け合い、運動の得意な子どもも苦手な子どもも最後まで根気よく取り組んでいた。子どもからは「やったー、登った!」「みんなと一緒に頑張れてよかった!」という声が挙がっていた。子どもは達成感や充実感を仲間と共に味わいながら、学級集団としての絆も高めていた。このように、学校行事や学校生活において、交流を深めながら、運動への関心や自身の体力を高めてきている。

しかし、子どもは普段、多忙な日々を送っている。学校で行っている運動を家庭でも行うまでには至っていない。この要因としては体を動かす「時間、空間、仲間」とのかかわりが減ってきていることが考えられるが、一概にこのことだけとは限らない。子どもが運動に対し、楽しさを求める「欲求充足機能」と体力の必要性や動きを高めるための運動の仕方を理解する「必要充足機能」の両方が満たされていれば、子どもは限られた条件でも、自ら運動をしようとするであろう。

「体づくり運動」は、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」で構成され、心と体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる運動である。そして、子どもは自他の心と体に向き合っ、運動の仕方を工夫することで、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるものである。こうしたことから、日常生活における健康の保持増進、体力向上についての効果的な実践力を身に付けることにつながる運動と考える。

指導に当たっては、運動をしたときの心地よさを体験できるように「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」を有機的に関連付けていく。そして、子どもの「欲求充足機能」と「必要充足機能」の両方から学習内容を導き出すことに気を付ける。

まず、「必要充足機能」を導き出すためには、「出会い」の場面において、子どもに「なぜ運動をする必要があるのか」という課題を持ち掛け、現代社会の生活の利便性の向上が図られる一方で、体を動かす機会が減少されるといった問題にも触れる。その結果、保健領域における「心の健康」で学んだことを実証しようとする場にもなり、さらには運動に関する基礎的な知識の習得にもつながった。

一方、「欲求充足機能」を導き出すためには、「出会い」の場面では、いろいろな運動を試しに行

うことで「これなら続けられそうだ!」「もっとやりたい!」という気持ちを喚起するようにした。そして、体ほぐしの運動を取り入れ、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、心と体の関係に気付いたり、仲間と交流したりする場を設けた。また、集団的達成を課題とした運動を取り入れることで、子ども同士で課題解決のために話し合ったり、協力したりする経験をたくさん積むようにした。すると、子どもには協力の必然性が自然と生まれ、役割の変化や行動の深化が見られ、子どもは夢中になり、豊かな交流が生まれていた。

「挑戦」の場面では、取り上げる教具を変えることで、子どもを飽きさせない工夫を図っている。そして、子どもがいろいろな運動を通して、その動きが「体の動きを高める運動」のどの要素につながっているかを意識できるように心掛けた。そうすることで、子どもは運動のバリエーションを増やし、自分の課題解決に向けた適切な運動方法を選択することへとつながれると考えた。

こうした過程を踏みながら、動きを高める運動として効果的かどうかを共有、選択しながら、5年星組独自のイベントである「体力万博2019」の開催へとつながりたい。

単元終末の「感動」の場面では、学習のまとめとして、「体力万博2019」を実施し、互いの成果を実感し合う場を設定する。ここでは家族をこのイベントに招待することで、家族と共に運動に対する課題解決にもつながりたいと考える。このようにして、「必要充足機能」や「欲求充足機能」の両方を高めながら、一人一人の運動の日常化へとつながりたい。

### 3 単元のねらい

- 約束を守り、仲間と助け合ったり、安全に気を配ったりしながら、積極的に運動に取り組む。
- 体を動かす楽しさや心地よさに気付き、自己の体の状態や体力に応じた課題を設定し、互いに伝え合いながら運動の行い方を工夫する。
- 取り組む動きの必要性や方法を理解し、各種の動き（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続させる能力）を高める。

### 4 単元の展開（全8時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クラス全員でチャレンジ運動に取り組もう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の見通しを持ち、学習の進め方や準備・片付けの仕方を知る。</li> <li>○ いろいろな体ほぐし運動に挑戦し、自分の体力を確かめる。</li> <li>○ 仲間と協力しながらチャレンジ運動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全面や運動の行い方等を理解している。</li> <li>● 仲間と助け合いながら、積極的に運動に取り組んでいる。</li> </ul>	2
挑 戦	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身近なものを使って運動を楽しもう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四つの「体の動きを高める運動」の仕方を工夫する。</li> <li>○ 友達と教え合ったり励まし合ったりしながら運動をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仲間が考えた運動を楽しもう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仲間が考えた四つの「体の動きを高める運動」の仕方を検証し、更に工夫する。</li> <li>○ 「体力万博2019」での種目を練習し、その運動ができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己の体力に応じて運動の行い方を工夫する。</li> <li>● 体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、体力を高める運動をする。</li> <li>● 仲間と協力して運動したり、運動の行い方を工夫したりすることができている。</li> </ul>	5 本 時 その4
感 動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「体力万博2019」を開催しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身に付けた運動をイベントで伝え、運動の日常化へとつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体力を高めるよさや必要性に気付き、さらに自己の体力に応じた運動を工夫し、積極的に活動に取り組んでいる。</li> </ul>	1

## 5 単元における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出会い	・ 心と体は深く影響し合っていることを伝え、日頃から運動することの意義が分かる。（学）
挑戦	・ ペアあるいはグループで、高めたい体力に応じた運動を考える場面を設定することで、仲間と考えを伝え合い、共に運動することのよさを感じることができるようにする。（他）
感動	・ くすのき学習と関連を持たせて学習空間を広げ、子どもたち自身で大会を運営できるようにすることで、心に深く残る学びとしたい。（自）

## 6 評価の具体的な方法

### (1) 「出会い」「挑戦」「感動」の学習過程における指導と評価

	「学習材」「他者」「自分自身」をつなぐ方針	主に評価する三つの資質・能力
出会い	○ 身近なものを使った運動を紹介し、実際にやってみることで意欲を高める。（学）	・ 教材と出合うことで、「できるようになりたい」「友達と一緒に頑張りたい」という思いや願いを強くし、自分なりのゴールイメージを持って前向きに取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度）
挑戦	○ 身近なものを使って、仲間と達成できる運動を取り入れることで、楽しく「体の動きを高める運動」に取り組むことができるようにする。（学） ○ 四つの「体の動きを高める運動」について、仲間と一緒に考えながら課題解決することで、一緒に活動することの楽しさを感じることができるようにする。（他）	・ 運動を「する」楽しさを十分に味わうことができている。（主体的に学習に取り組む態度） ・高めたい体力に応じた運動を実感することで、「これは効果がありそうだ」と動きの必要性や方法を理解している。（知識・技能） ・ 仲間との励まし合いやアドバイスをし合ったり、グループで高めたい体力に応じた運動を考えたりする。（思考・判断・表現）
感動	○ これまでの活動を振り返ることで、運動に対する意識の変化を自覚できるようにし、くすのき学習と関連を持たせながら子どもの思いや願いを叶えられるようにする。（自）	・ 体力を高めるよさや必要性に気付き、「体力万博2019」に向けて、更に体力を高める運動を考えている。また、イベントの実現に向けて自分たちで企画・運営をしている。（主体的に学習に取り組む態度）、（思考・判断・表現）、（知識・技能） ・ 「みる」「支える」の視点からも運動とかかわる楽しさを感じることができている。（主体的に学習に取り組む態度）

### (2) 子どもの自己評価

子どもの自己評価として以下の質問をする。これを毎時間積み重ねていくことで、子どもの自己評価を蓄積し、個別指導に生かしたい。また、数値が変化した理由を教師自身が考えることによって授業改善にも生かすことができ、子どもたちの思いや願いをよりくみ取った授業を目指すことができる。

評価方法：それぞれの質問に対して「はい・どちらでもない・いいえ」で自己評価する。（毎時間）

1	楽しかったですか。
2	今までできなかったこと（運動や作戦）ができるようになりましたか。
3	自分のめあてに向かって何度も練習できましたか。
4	友達と協力して、なかよく学習できましたか。
5	友達とお互いに教えたり、助けたりしましたか。

また、単元を通して「体育ノート」に毎時間の振り返り等を書かせる。そこには授業で学んだことの他に、①自分の成長、②友達とのかかわり、③自分なりの目標等を書かせる。その記述から、子どもが自身をどのように評価しているのか、友達のことをどのように思っているのか等を教師が把握しておくことで、子どもの思いをより深くくみ取り、次の授業での指導に生かし、子どもの力を更に伸ばすことができる。

## 7 本時の授業（6／8）

(1) 日時 令和2年2月1日（土）9：20～10：05

(2) 場所 附属中学校体育館

(3) ねらい

- 友達と教え合ったり励まし合ったりしながら、身近なものを使った運動に積極的に取り組む。
- 自分の体力に合った運動の行い方を工夫し、高めたい動きに応じた運動を伝え合うことができる。

(4) 準備物 ビブス、体育ノート、タオル、ベルト、ボール等

(5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 準備運動をする。 ・タオル体操	<p>運動を楽しむために、体と頭をほぐそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり関節を伸ばそう。</li> <li>・タオルで上手に体をほぐすことができたよ。</li> <li>・音楽に合わせて、体操すると楽しいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動のポイントを伝え、使う部位を意識できるように声を掛ける。</li> <li>○ 音楽を流すことで、楽しい雰囲気を作り出す。</li> </ul>
2 タオルを使った運動遊びをする。 ・タオルチャンバラ	<p>「タオルチャンバラ」で、体をしっかり動かそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タオルを使って、思い切り体を動かすぞ。</li> <li>・手のスナップを効かせて、相手の球を落とすぞ。</li> <li>・相手の動きをうまくかわすぞ。</li> <li>・タイミングを見て、相手の背後に回ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「タオルチャンバラ」をすることで、欲求充足機能が満たされるようにする。</li> </ul>
3 「タオルジャンプ」の仕方を知り、動きのこつを伝え合う。	<p>「タオルジャンプ」で巧みな動きを高めよう。</p> <p>試しにやってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タオルだと、よく見えて跳びやすいそうだな。</li> <li>・意外と跳ぶタイミングが合わないな。</li> <li>・タオルに入る位置は回す人の横からがいいね。</li> <li>・タオルが地面に付いたとき、中に入ればいいよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「タオルジャンプ」は巧みな動きを高めることにつながることを押さえ、必要充足機能が満たされるようにする。</li> <li>○ 「もとになる動き」を提示することで、巧みな動きが高められたゴールイメージを持つるようにする。</li> </ul>
4 「巧みな動き」を更に高められるように、方法を工夫し、紹介し合う。	<p>工夫してやってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳ぶ人数を増やしてみよう。</li> <li>・逆回し跳びは難しそうだね。</li> <li>・跳びながら向きを変えてみよう。</li> <li>・どのように回せば、跳びやすいかな。</li> <li>・8の字跳びができそうだね。</li> <li>・しゃがんで跳んでみようかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工夫する視点を「向き」「姿勢」「人数」に限定することで、運動の工夫の焦点化を図る。</li> <li>● 高めたい動きに応じた運動を理解することができたか。 [様態・体育ノート]</li> </ul>
5 「集団的課題」にチャレンジする。	<p>クラスみんなで記録にチャレンジしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで記録を達成するぞ！</li> <li>・リズムを大切に、声を掛け合おうよ。</li> <li>・跳ぶ人の並び方を変えてみようよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの実態に合わせて、集団的課題の達成条件を少しずつ変え、子ども同士の話合い、相談が自然と生まれてくるようにする。</li> </ul>
6 本時の活動を振り返る。	<p>今日の活動を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「タオルジャンプ」を家族とやってみたいな。</li> <li>・タオルを使って、長縄ができたから、休み時間にもやってみよう。</li> <li>・巧みな動きが高まったから、家の人にも「体力万博2019」で紹介しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 友達と教え合ったり励まし合ったりしながら、積極的に運動に取り組むことができたか。 [様態・体育ノート]</li> </ul>